IBM i 事業戦略

-持続可能かつ企業競争力を高めるプラットフォームとして-

2024年 11月6日（水）

日本アイ・ビー・エム株式会社

理事 テクノロジー事業本部

IBM Power事業部

事業部長　原 寛世

IBM i

continuous innovation

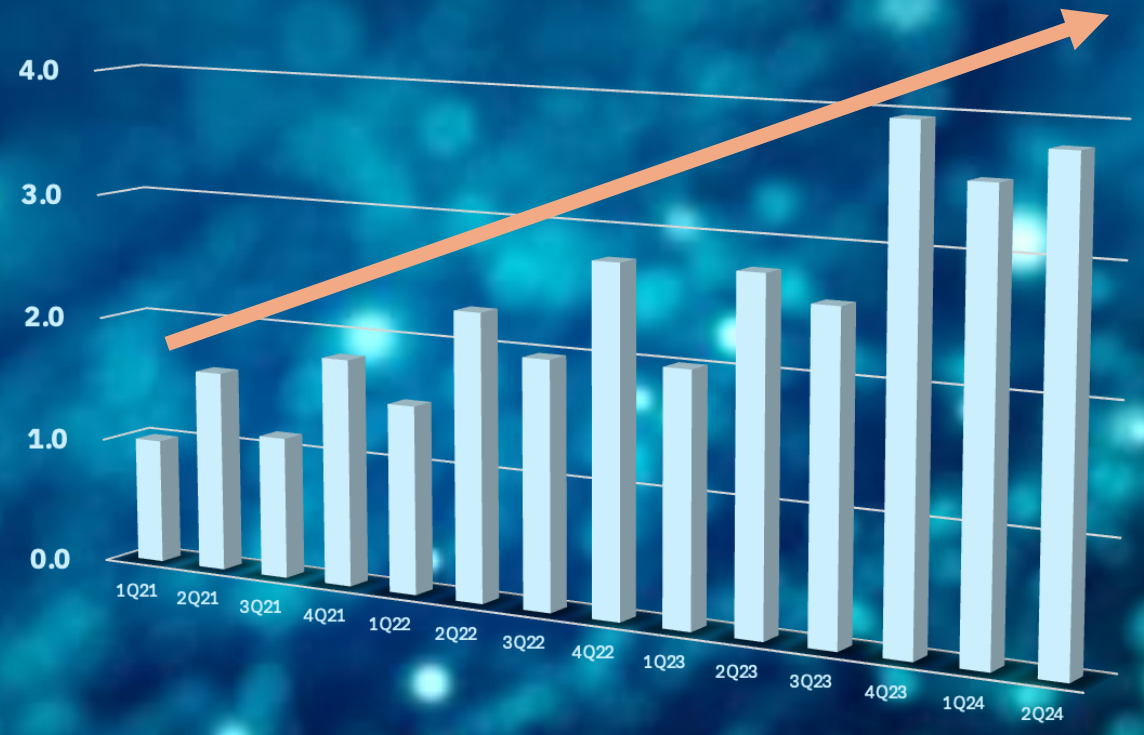
continuous integration

Advantage 2024

IBM

IBM i Business

- 世界115 カ国の、全ての産業で、あらゆる規模のお客様がご使用中
  - ワークロード総量
  - 売上
  - 保守サービス受注　全て成長



生成AIはビジネス変革を次のステージへと導く...

62%

の経営層が、生成AIによって自社におけるエクスペリエンス設計の在り方が破壊的に再構築されるだろうと回答している。(1)

(1) IBM IBV The CEOs guide to AI

...ハイブリッドクラウドをより意図的に導入する企業は、その影響を加速させるでしょう。

71%

の経営幹部は、堅実なハイブリッドクラウド戦略を策定せずにデジタルトランスフォーメーションの可能性を最大限に引き出すことは難しいと考えています。(2)

(2) IBM Transformation Index: State of Cloud

IBM i + AI

10年間のイノベーションの展望 – IBM POWER＆IBM i

IBM i Advantage 2024

継続的なイノベーション

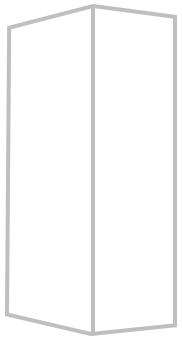
IBM Power

ミッション・クリティカルでスケーラブルなトランザクション処理とデータ・サービス・ワークロードのための最も信頼できるオープン・コンピューティング・プラットフォームであり続ける

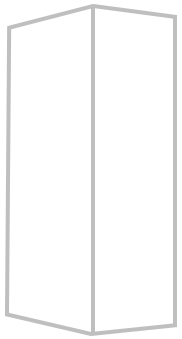
IBM Power 8

IBM Power 9

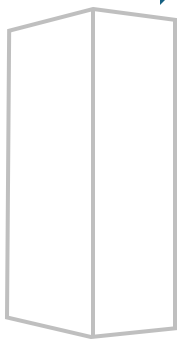
IBM Power 10



IBM Power Next



IBM Power Next +1



IBM Power Next +2

AI、Appモダナイズ、HybridCloud、コンテナー、Quantum Integration

キャパシティー、可用性、セキュリティ、自動化、持続可能性の向上

IBM i

後方互換性、可用性、高セキュリティを保ちつつ、最新のアプリケーション開発、オープンソースサポート、高度な分析と AI 活用等、継続的なイノベーションを実装

IBM Power Virtual Server

クラウドの柔軟性/俊敏性

2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024

i Next

i Next+ 1

i Next+ 2

7.5: TR1, TR2, TR3, TR4, TR5

7.4: TR1, TR2, TR3, TR4, TR5, TR6, TR7, TR8, TR9, TR10, TR11

7.3: TR1, TR2, TR3, TR4, TR5, TR6, TR7, TR8, TR9, TR10, TR11, PTFs

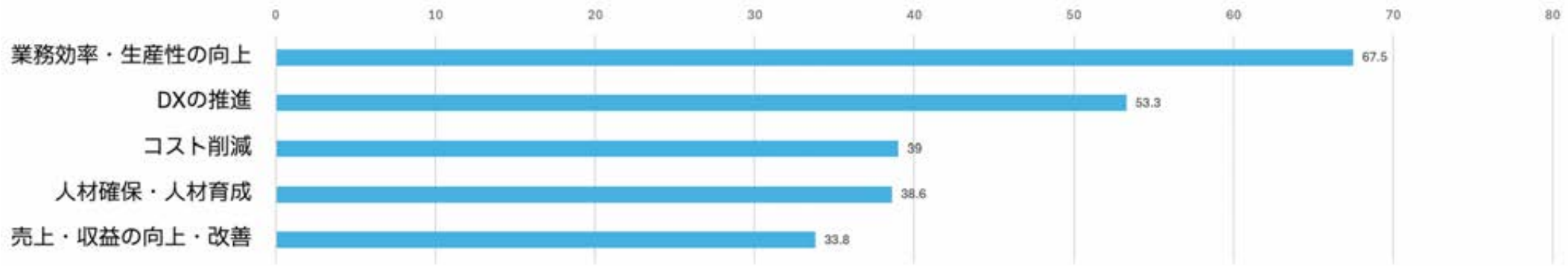
7.2: TR4, TR5, TR6, TR7, TR8, TR9

IBMi

日本IBM Power 事業部

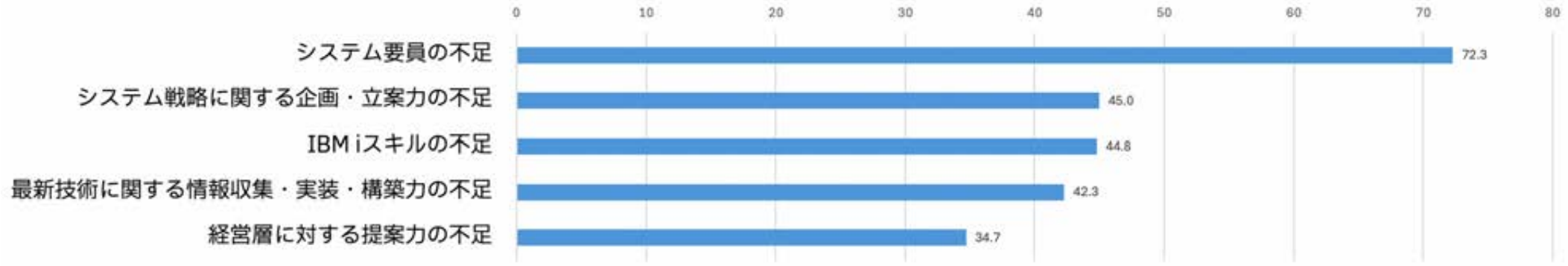
IBM i のユーザー様が直面しているビジネス課題とは

経営課題 トップ5



iMagazine社IBM i ユーザー動向調査2023 「IT部門が参画すべき短期・中期的な経営課題 (複数回答)」より抜粋

情報システム全般の課題 トップ5



iMagazine社IBM i ユーザー動向調査2023 「情報システム全般の-比較 課題・問題の推移（2019～2023年）複数回答）」より抜粋

IBM i が実現するモダナイゼーションを訴求・普及・拡大のために

IBM i Advantage 2024

IBM i

DX/モダナイズ可能な開発人材育成

盤石な基盤ビジネスをもとに、
DX付加価値を創造する

ユーザー様による IBM i コミュニティ活性化

次世代のIBM i 技術者を育成と、
コミュニティ活動で情報共有し、
新たな価値創造を推進

経営者にIBM i を理解いただく

IBM i の価値を再認識し、
経営者、利用部門への支持を強固に

IBM i 2024年　年間活動プラン　進捗状況

IBM i Advantage 2024

2024	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec

経営者にIBM i を理解
イベント/キャンペーン/
プロモーション

- IBM Power Salon(毎月第２水曜日)
- IBMi 関連セミナーx３回
- IBMi World 2024 ６月21日開催
- ブログ#1発信
- ブログ#2発信
- IBMi Advantage2024
- i EVO 2024
- Rochester Tour
- 年間36回のイベントを開催予定

ユーザー コミュニティ
活性化

- IBM i 若手技術者コミュニティ（IBM i RiSING）
- COMMON JP Pre
- COMMON JP
- IBMi Club
- iWorld Webによる情報発信
- iWorld

DXを実現できる
開発パートナー

- IBM i ハンズオン研修 x ４回
- 開発者スキルアップ新研修開発中
- RPG Code Assistantプロジェクト
- TechExhcange、Qiita etc情報発信
- DX開発パートナーご紹介制度

IBM i 開発技術者活性化例（IBM i 施策メッセージ第1弾）

IBM i Advantage 2024

若手次世代技術者リーダーフォーラム

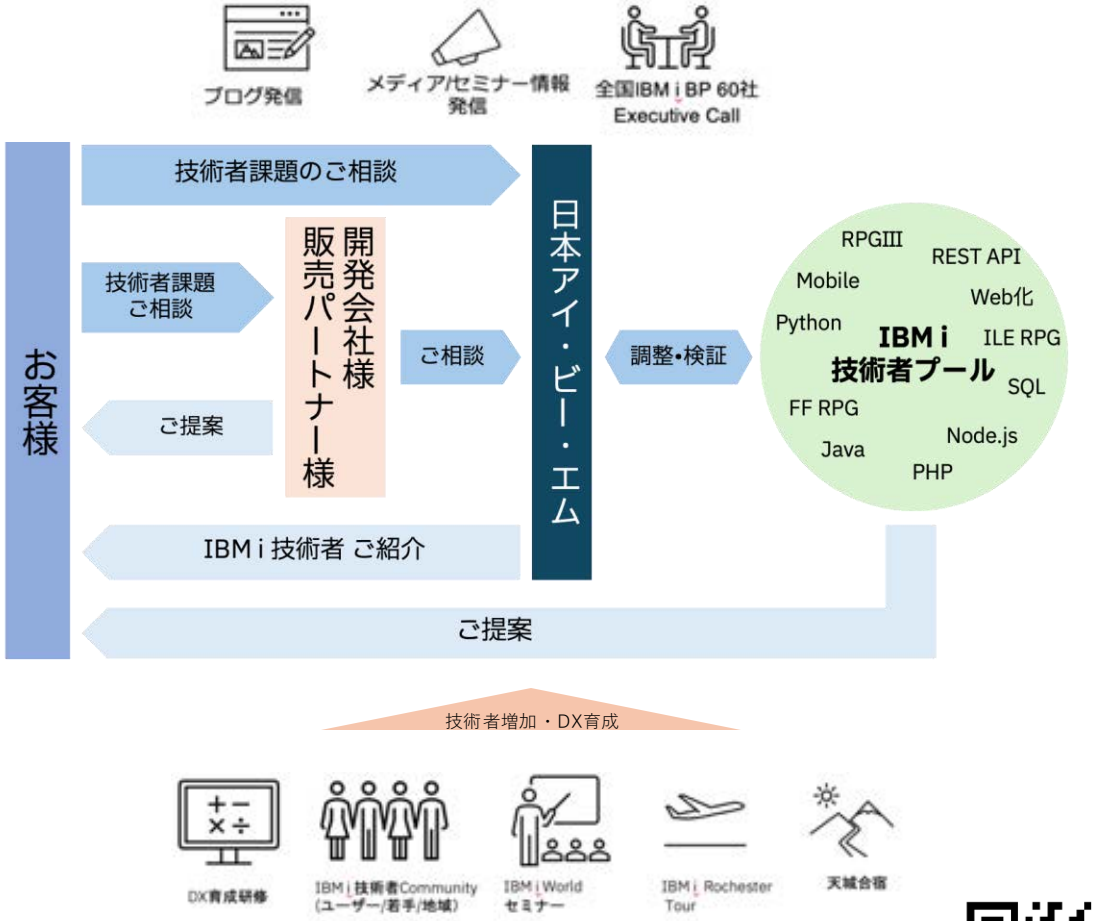
IBM i 若手技術者コミュニティ（IBM i RiSING）

- IBM i の開発に従事して10年以内の開発技術者　約50名様参加
- チームごとに研究テーマを決め4ヶ月に渡って活動
- 最終成果を「若手次世代技術者リーダーフォーラム」にて発表
- IBM iの将来について自ら検討

参加者様の声：
「同世代の方と悩みを共有できる貴重な機会」
「社外の方との長期的な目標に向けた取り組みを話し合うことができてモチベーションが上がった」

IBM i Advantage 2024 「IBM i RiSING」ブース展示します。

IBM i 技術者プール　～IBM i 技術者紹介制度～



IBM i 施策メッセージ第1弾：
貴社における IBM i への懸念（DX・技術者・後継者）を、
日本 IBM が払拭します。
https://ibm.biz/harablog1

IBM i 施策メッセージ第2弾 発信

IBM i Advantage 2024

IBM i 施策メッセージ第2弾：IBM i 次期システム更改の稟議上申ポイントを日本IBMがご紹介します

2024年10月7日

長年にわたりIBM iをご利用いただいているお客様から、IBM iのシステム更改の為の稟議書の書き方についてご相談いただくことがあります。このような時には、IBM iのメリットや将来的な価値についての経営層への説明の仕方をご助言申し上げております。今回、IBM i のお客様にとっての価値を改めて整理し、稟議書提出時の重要なポイントを紹介いたします。また、個別のご相談も承っておりますので、稟議書作成のサポートをご希望の場合は、ぜひ日本IBMにご相談ください。

ご相談窓口

1. 上申する際に何を伝えるべきか？
2. **稟議書に記載すべき見落としがちな投資対効果**
3. お客様からの、よくあるご質問
4. **DX、モダナイズジャーニーで将来計画を**
5. 最新のユーザー事例情報を活用してください
6. 稟議書準備支援室　相談窓口

https://ibm.biz/harablog2

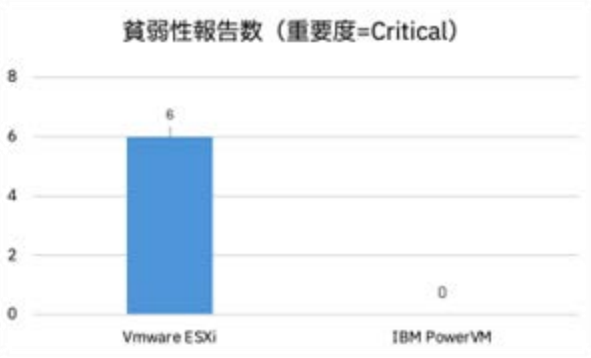
2. 稟議書に記載すべき見落としがちな投資対効果

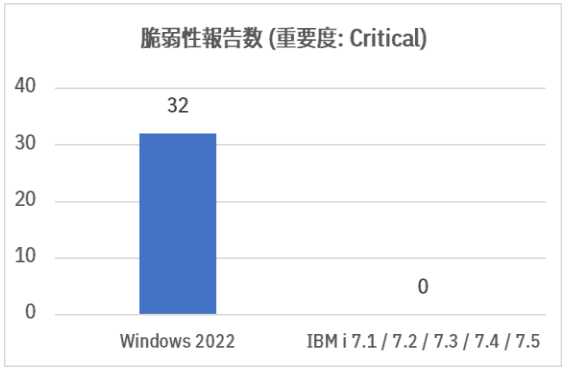
IBM i Advantage 2024

～他社と比較した際の違い～

(1) セキュリティ対策に関する費用

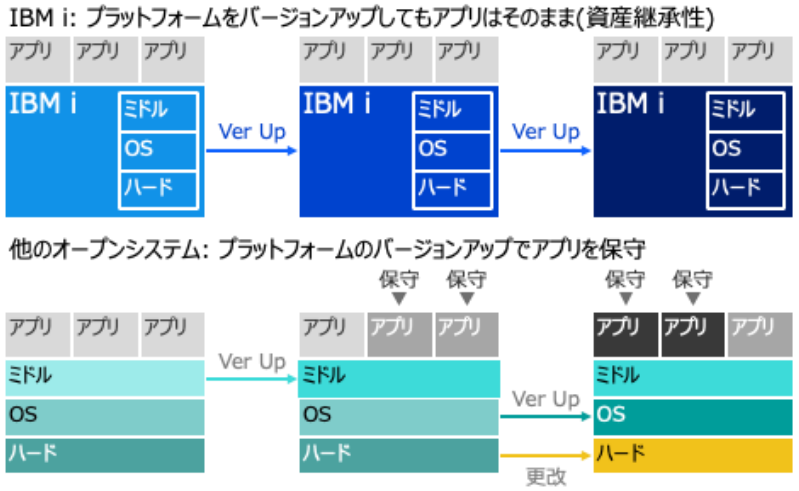
オールインワンでIBM i でハッキング被害の報告0



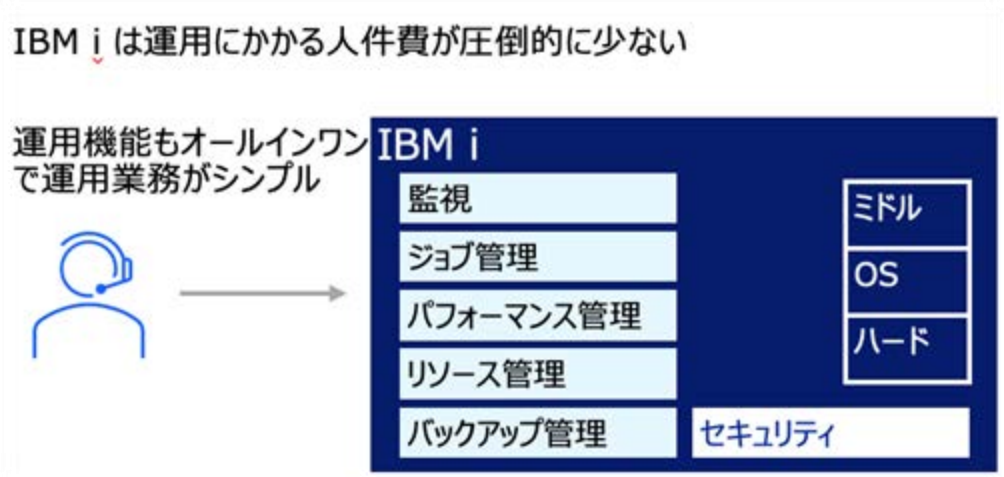


*: Source : National Vulnerability Database　2023/7/3以前で、CVSS Metrics = Version 3.x、Severity Score Range = Critical (9-10) の報告件数を集計。
対象Vendor: Microsoft・IBM、対象製品: 上記グラフに記載。https://nvd.nist.gov/vuln/search

(2) システム更改費用

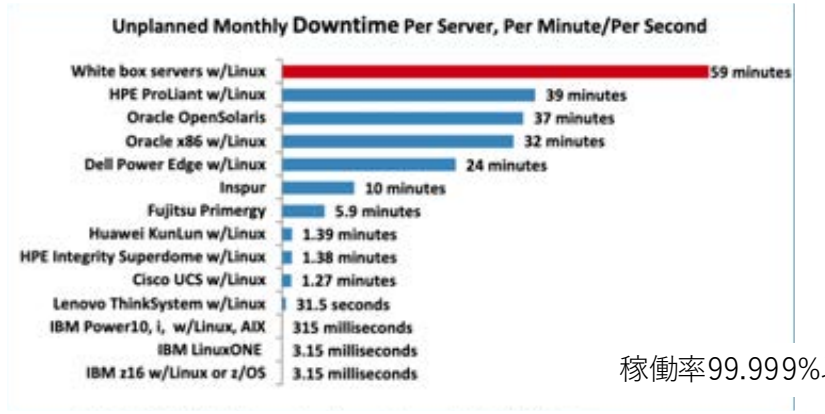


(3) 基幹系システムの運用費用



(4) システムダウンタイムの低減による効果

Exhibit 1. Unplanned Annual per Server Downtime in Minutes by Vendor Platform



稼働率99.999%以上相当

Source: ITIC 2023 Global Server Hardware, Server OS Reliability Survey

4. DX、モダナイズジャーニーで将来計画を』

IBM i Advantage 2024

業務面での効果

AI活用

IBM i 資産のAI活用
- アプリケーション
- データ

新しいビジネス創造
により劇的な生産性向上

ジャンプアップ可

アプリケーション
モダナイズ

API連携、SaaS、OSS活用
SQL活用と定着

業務機能拡張・
開発生産性向上

DXにむけての環境整備

RPGⅢからILE RPG、FF RPGの採用
開発環境整備、Gitの活用と定着

ブラックボックス回避

資産見える化

資産・構築・運用の見える化

最新
研修サービス

AI連携
サポート

ノーコード
開発

ローコード
開発

API連携

BI

データ
交換・活用

セキュリティ

資産
見える化

IT高度化

※IBM i Advantage 2024 エクスクルーシヴ/プラチナ/ゴールド・ブーススポンサー様のロゴを掲載しています（順不同）

DXの実現は、IBM iで

IBM i Advantage 2024

	DX導入時の費用 導入時リスク	運用費用	持続性	DX容易性・ 現場ユーザー操作性	セキュリティ強度
現行システムをベースにDX RPG/COBOL LLM,SaaS,Cloud…. 現行機資産 最新テクノロジー	既存資産を有効活用しながら、新たなDXの推進を安価に実現可能。膨大な既存データを活用可能 ◎	HW・OS・DB・コンパイラ全てオールインワン運用で運用人件費少 ◎	IBMがOS・DB・コンパイラ一体で製品開発・サポート継続 バージョンアップ時の非互換発生が些少のため移行コストと現場ワークロードを最小化 ◎	現行アプリとAI連携などを容易に実装可能 1年に2度の機能強化により最新テクノロジーを常に利用可能 ◎	ハードウェア・OSに高リスクの脆弱性なし。セキュリティ対策機能が標準装備 ◎
多言語への書き換えしてDX（リライト） RPG/COBOL Javaなど 書換 現行機 IAサーバー	リライト作業が 高価かつハイリスク ✕	HW・フレームワーク・ MW・OSごとに運用担当者が必要で運用人件費大。 トラブル発生時にも異なるメーカーへの問い合わせが必要 △	フレームワーク/ MW / OSバージョンアップ時の非互換対応のために移行コストと現場ワークロードが発生 △	バージョンアップを多頻度で行えず、最新テクノロジー利用が困難 △	システム保護のため別途セキュリティ対策が必要 ？
新ERPに再構築してDX(リビルド) 移行 現行機 パッケージ	高価かつ長期間のカスタマイジング 業務要件に合わせるのが難しい △	HW・ERP・ MW・OSごとに運用担当者が必要で運用人件費大。 トラブル発生時にも異なるメーカーへの問い合わせが必要 △	ERP/MW/OSバージョンアップ時の非互換対応のため多額の移行コストと大きな現場ワークロードが発生 △	バージョンアップを多頻度で行えず、最新テクノロジー利用が困難。 ERPの場合パッケージが許容する範囲でDX ○	システム保護のため別途セキュリティ対策が必要 ？

他社汎用機の受け皿としてのIBM i

他社汎用機　移行プロジェクトの成功要因の全てを同時に満たすソリューションは、IBM i だけ

他社汎用機ユーザーの課題

- 2年～10年以内に現行の汎用機から持続性ある新基盤へ移行し、確実な現行業務を継続必須
- 膨大なプログラム本数とブラックボックス化
- 運用費用削減
- 汎用機並みの信頼性・パフォーマンス、長期的に安定してセキュアなシステム
- 現代の技術や製品のメリットを享受し、モダナイゼーションの推進を迫られている

移行プロジェクト成功要因

- 期限厳守、現行保証を意識した安心・安全かつ確実な移行
- 汎用機と同様の安定したセキュアなシステム運用とTCO削減の両立
- アプリケーションのモダナイゼーションを推進するための将来性のあるオープンな環境

IBM i が最適な理由

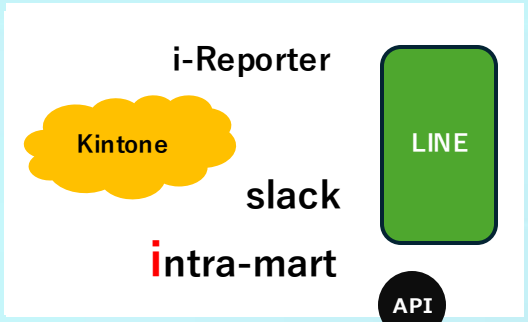
- COBOLプログラムをそのままコンバージョン可能な親和性の高いプラットフォーム
- 成功実績が豊富な移行方式により安心・安全・確実に移行するとともに、移行費用を節減

- セキュアなオールインワン・アーキテクチャー、アプリケーションの資産継承性により、TCOを削減
- ホストを技術をベースとた信頼性の高いハイパフォーマンスなテクノロジー

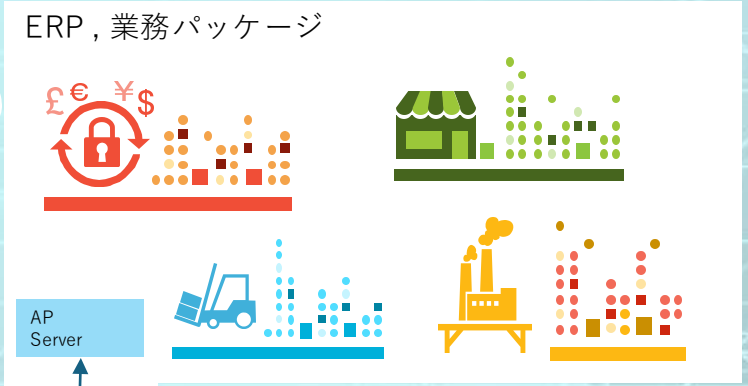
- オープンな技術をサポートするプラットフォームにより、基盤制約のない開発環境を実装
- アプリケーションモダナイズを可能とする様々なサポート機能

IBM i
IBM i
への
リホスト

IBM Powerが実現する世界



LLM



Data Data Data Data Data Data

API連携

AP Server

DB Server

API

Oracle SAP

DB

Db2 for i Oracle FEP EDB Postgre

開発環境

Rational Development Studio VS Code

Machine Learning （AI/機械学習）

Red Hat Stacks Merlin

Open-Source Stacks

ISV AI Solutions

IBM Enterprise Stacks watsonx

OS

IBM i AIX Red Hat OpenShift LINUX(RHEL他)

仮想化

PowerVM Hypervisor

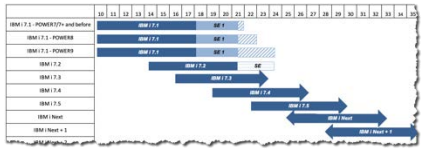
Powerオンプレミス

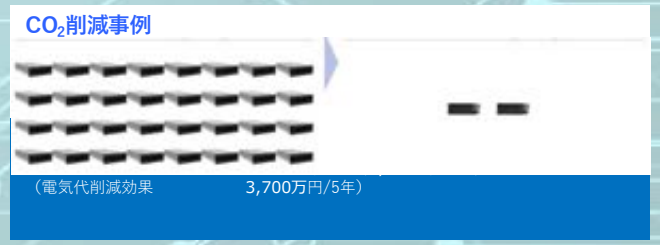
PowerVirtualServer クラウド

アプリケーション資産を継承しながら成長

RPG/COBOL他、多くのISV開発ツールが互換性を堅持 = 移行テスト不要

IBM i サポート・ロードマップ





データベースの活用	アプリケーションへのAIの組み込み MMA	アプリケーションとデータを 同じ場所に配置	ISVアプリケーションの コンテナ化

IBM i Advantage 2024 開催のご案内

・**オンサイト**　**2024年12月3日(火)・4日(水) 12:00～18:00(13時講演開始)**
※オンサイト会場は、満席になり次第、お申込を締め切らせていただきます
・**Webセミナー**　**2024年12月24日(火) 10:00～16:00 (リプレイビデオ放映+Q&Aライブ)**

ご好評でしたIBM i World2024に続き、今年はIBM i ビッグ・イベントを秋冬にも開催いたします。最新テクノロジーのUpdate情報や、AI、DX、人材育成など事例を交えながら最新情報をお届けし、さらにIBM i 関連ソリューションの展示ブースも多数設置される予定です。みなさまのお申込みをお待ちしております。

開催概要

【オンサイト会場】日本アイ・ビー・エム株式会社　本社　虎ノ門ヒルズステーションタワー31F
【ライブビューイング会場】日本アイ・ビー・エム株式会社　大阪事業所中之島フェスティバルタワー・ウエスト 13F
当日はお名刺を２枚ご準備ください。
【参加費用】無料/事前登録制
【お申込み】
下記のURLもしくは右側のQRコードからお申し込みください。
https://ibm.biz/iia2024ibm

【プログラム概要】
1. 協賛各社様によるブース展示 (正午より午後6時00分まで開設)
2. IBM i 製品開発ストラテジー
3. 最新IBM i 情報
4. お客様講演
12月3日：立命館大学様、株式会社フェリシモ様
12月4日：株式会社マルテー大塚様、協和自動車株式会社様、コメリグループ 株式会社ビット・エイ様

※イベント内容の詳細は、こちら　https://ibm.biz/ibmiadvantage2024

お問い合わせ先：ibmiworld2024@wwpdl.vnet.ibm.com

IBM i

ワークショップ、セッション、および資料は、IBMによって準備され、IBM独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる読者に対しても法律的またはその他の指導や助言を意図したものではなく、またそのような結果を生むものでもありません。本資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努力しましたが、「現状のまま」提供され、明示または暗示にかかわらずいかなる保証も伴わないものとします。本資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。 本資料に含まれている内容は、IBMまたはそのサプライヤーやライセンス交付者からいかなる保証または表明を引きだすことを意図したものでも、IBMソフトウェアの使用を規定する適用ライセンス契約の条項を変更することを意図したものでもなく、またそのような結果を生むものでもありません。
本資料でIBM製品、プログラム、またはサービスに言及していても、IBMが営業活動を行っているすべての国でそれらが使用可能であることを暗示するものではありません。本資料で言及している製品リリース日付や製品機能は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、いかなる方法においても将来の製品または機能が使用可能になると確約することを意図したものではありません。本資料に含まれている内容は、読者が開始する活動によって特定の販売、売上高の向上、またはその他の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したものでも、またそのような結果を生むものでもありません。 パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。
記述されているすべてのお客様事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。
IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Db2、Power Systems、POWER6、POWER6+、POWER7、POWER7+、POWER8、 POWER9は、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。
他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。
現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。

インテル, Intel, Intelロゴ, Intel Inside, Intel Insideロゴ, Centrino, Intel Centrinoロゴ, Celeron, Xeon, Intel SpeedStep, Itanium, およびPentium は Intel Corporationまたは子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。
Microsoft, Windows, Windows NT および Windowsロゴは Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。
ITILはAXELOS Limitedの登録商標です。
UNIXはThe Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。
JavaおよびすべてのJava関連の商標およびロゴは Oracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。